



国津の杜の行事

岡はぐくみ工房あらかぎ ☎62-6920

体操教室 辻明子さんのストレッチ体操で血行を良くして日々の疲れを癒しましょう。

日時 平成25年1月12日(土) 午前10時～11時30分 講師 辻明子さん

定員 16人 参加費 300円
持ち物 屋内用靴、敷きマット(バスタオル)

木工教室 ハウス形プランターカバーを作りましょう。

日時 平成25年1月13日(日) 午前10時～午後零時30分 講師 土井義政さん

定員 10人 参加費 1,500円(材料費含む)
持ち物 手袋(軍手)、タオル

体操教室 万代くみ子さんの健康体操で心身を癒し身体を引き締めましょう。

日時 平成25年1月15日(火) 午前10時～11時30分 講師 万代くみ子さん

定員 16人 参加費 300円
持ち物 屋内用靴、敷きマット(バスタオル)

糸のこ木工芸教室 糸のこぎりを使ってレターラック(状差し)を作りましょう。

日時 平成25年1月18日(金) 午前10時～午後零時30分 講師 長谷川重峰さん

定員 6人 参加費 1,000円(材料費含む)
持ち物 手袋(軍手)、タオル

草木染教室 くちなしでフワリ房付ウールマフラー(40cm×150cm)を染めましょう。

日時 平成25年1月20日(日) 午前10時～午後零時30分 講師 長船智子さん

定員 10人 参加費 2,500円(材料費含む)
持ち物 ゴム手袋、前掛け(エプロン)、タオル

☆☆☆☆☆
申込 12月25日(火)から平成25年1月7日(木)までに、電話で問い合わせ先へ
※ただし12月29日から1月3日は除く
先着順。参加者が少ない場合は中止

ご意見をお寄せください

第二次名張市子ども読書活動推進計画 素案

意見募集期間 12月23日(祝)～平成25年1月23日(水)

市民の皆さんの意見を反映する

パブリックコメント

条例や市の重要な計画などを素案の段階で市民に公表し、それに対する意見を考慮して意思決定を行う制度です

読書活動は、子どもの成長や自己形成、コミュニケーション能力の向上に重要です。市では、平成15年に「名張市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動の推進に努めてきました。今後、この活動をさらに推進するため「第二次名張市子ども読書活動推進計画」を策定します(計画期間は平成25年度から5年間)。

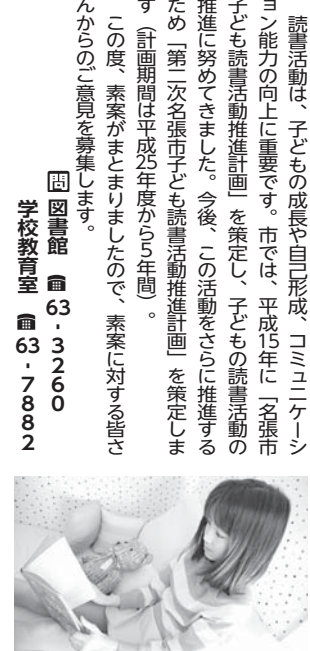
この度、素案がまとまりましたので、素案に対する皆さんのご意見を募集します。

**図書館 ☎63-32660
学校教育室 ☎63-7882**

- ### 三つの指針
- 一、家庭・保育所(園)・幼稚園における読書活動の推進
- ▼読本の充実と整備
 - ▼学校図書館の資料の充実
 - ▼人的体制の整備
 - ▼読書活動推進のための学校の取組
 - ▼市立図書館による学校図書館支援
- 二、小・中学校における読書活動の推進
- ▼読書活動推進のための取組
 - ▼人的体制の整備
 - ▼読書活動推進のための学校の取組
- 三、市立図書館における子どもの読書活動の推進
- ▼市立図書館の児童書の充実
 - ▼人的体制の整備
 - ▼地域における子どもの読書活動推進のための取組
 - ▼市立図書館による学校図書館支援

「家庭・保育所(園)・幼稚園」「小・中学校」「市立図書館」それぞれで、子どもの読書活動を推進することを「第二次名張市子ども読書活動推進計画」の指針とします。

この指針に沿って、学校図書館のあり方を検討し、その機能の充実を図ります。また、市立図書館が中心となり、家庭・地域・諸機関と連携して協力体制を作り、子どもの読書活動を支援します。



ご意見の提出方法・提出先

素案は、市ホームページ、または、各地区公民館・市民センター、図書館(桜ヶ丘)、市役所1階案内、2階広報対話室、3階学校教育室でご覧いただけます。

《ご意見の提出方法》

12月23日(祝)から平成25年1月23日(水)までに、「第二次名張市子ども読書活動推進計画(素案)に関する意見」と記入し、素案に対するご意見、氏名、住所、電話番号を書いて次のいずれかの方法で送付してください。

◇電子メール tosyokan@nabari-library.jp
◇ファクス 64-1689 ◇郵送 ◇直接持参
提出先…図書館(〒518-0712 桜ヶ丘3088-156) ※広報対話室でも受付

「入りにくいな」

先日、帰宅した夫が「会社の近くに、ラーメン店がオープンしたので行ってみたらすごい行列で食べるまでに一時間以上かかったよ。日本人のラーメン好きもあきれるな」と自分のラーメン好きもあきれを上げて話し始めました。

私は「そうね」と相づちを打ちながら「でも、ラーメン店で何となく女性一人だと入りにくいよね」と以前から感じていたことを話しました。

夫は「そんなものかなあ、何となく入りにくいって言うけど、何か原因があるんやろ? カフェやファミリーストランなら一人でも平気やろ?」と私に聞き返しました。

「そうね、でも家族連れやお友達と一緒にならいいのよ。一人で行くのがね」

「何なのかな?」

「なんていうか、そういうお店って『男性のためのもの』って言うか『男社会』ってイメージがあるのよね。牛丼や居酒屋もね」

「まっ、サラリーマンの定番でいう感じやな、お昼に牛丼、帰りに居酒屋、最後がラーメン」

「でしよう? そのイメージが強過ぎて、一人で行くのはちょっとっていう感じなの」

「最近はそのようなお店も、女性を意識していろいろ工夫して、雰

ひまわり No.393

～人権尊重をくらしのなかに～

ご意見は人権・男女共同参画推進室(☎63-7909)へ

「そうね、でも、まだまだね。当事者の私自身にもそういう意識が残っていて、自分を縛っているんだから」

「それはばくも同じや、『女性なのに』とか『男性だから』がふと浮かんでくることもあるな。なんだかラーメンから話が大きくなっただけで、男性も女性も気が付かずに古い意識を引きずって窮屈な思いをしているところがあるな」

「そうね、社会も個人も意識を変えて、伸び伸び生活できるようにしたいわね」

「ずいぶん前は、『女性は家にいるもの、炊事は女性の仕事』なんていう社会の意識があったけれど、女性の社会参画も進んできたし、ずいぶん変わってきたんじゃないかな」

「それが一番大きい理由かな」

「そうね、周囲の人にならなくて、一人でお店に入るのと、周りの人にならなくて、一人で外で食事して」って思われ

